

山形大学附属博物館

YAMAGATA UNIVERSITY MUSEUM 2018.3

館報 44

目次

《展示活動》

- 特別展「山形大学附属博物館ものがたり 収蔵品が語る90年のエピソード」
.....押野 美雪(1)
- 特別展「山形と沖縄をつないだ琉球漢詩文—近代山形最初の郷土史家、
伊佐早謙が収集した「林泉文庫」の世界—」
.....須藤 静香(7)
- オープンキャンパス特別展「没後200年記念 山形の算聖「会田安明」の軌跡」
.....佐藤 琴(12)

《地域との協働》

- 市民との協働活動 ボローニャとの交流活動.....佐藤 琴(13)

《調査研究活動》

- 国際シンポジウム.....佐藤 琴(15)

《報告》

- 「新編最上義光事歴」の再発見.....押野 美雪(17)
- 平成29年度事業報告.....(19)

《展示活動》

特別展「山形大学附属博物館ものがたり 収蔵品が語る90年のエピソード」

押野 美雪(附属博物館学芸員)

1. はじめに

本展覧会は2017(平成29)年度第1回特別展として企画した。会期は6月12日(月)から8月18日(金)まで[46日間]。当館は山形県師範学校時代の郷土室がルーツとなっている。以来、今に伝えられた収蔵品を紹介しながら、近代教育が始まった明治時代にまで遡る山形大学の歴史を振り返る展覧会である。期間中、オープンキャンパスの開催日と重なることから、高校生にも興味を持ってもらえるようキャプションにリードをつけるなど親しみやすい解説を意識した。

2. 開催概要

主 催：山形大学附属博物館

会 期：2017年6月12日(月)～8月18日(金)[46日間]

休 館 日：土・日・祝日(ただし、8月11日(金・祝)はオープンキャンパスのため開館)、8月14日(月)～16日(水)

来場者数：5,191人

3. 各章のテーマと展示物

展示構成は以下の通りである。博物館入ってすぐの大学紹介のエリアを第一章に替え、第二章から四章までを特別展示室で行い、その他を美術コーナーで行った。また、常設展の資料を一部特別展示に替え、それに合わせてキャプションも特別展仕様に変更した。

第一章 先輩たちのキャンパスライフ

第二章 136年前の山形と学校

第三章 三浦新七博士と長井政太郎館長

第四章 郷土室から博物館へ

第五章 大正時代—芸術家たちの軌跡—

第六章 展示室から大学の外へ

3.1. 先輩たちのキャンパスライフ

本学は1949(昭24)年に山形高等学校(1920(大正9)年)、山形師範学校(1978(明治11)年)、山形県実業補習学校教員養成所(1922(大正11)年)、米沢工業専門学校(1910(明治43)年)、山形県立農林専門学校(1947(昭和22)年)を設立母体として発足した。当時、山形高等学校(以下山高)は山形市小白川町(現小白川キャンパス)、山形師範学校は緑町(現教育資料館)にあった。開学当初は山形師範学校校舎も教育学部の校舎として使われていたが、1963(昭和38)年に小白川キャンパスに移転した。

第一章では、前身校から引き継いできた資料や、大学誕生当初の学生生活をうかがえる資料から山形大学(以下山大)の歴史を紹介した。山高校舎写真を中心に、そこから右手に師範学校関係資料、左手に山高及び開学初期の山大資料を展示した。師範学校については、1907(明治40)年の生徒成績品から師範学校校舎平面図、1930(昭和5)年の卒業生が作った校舎模型など、校舎の変遷が分かるような展示とした。この他、第二次世界大戦末期の山高入学関係資料を卒業生から借用することができた。これは山高生の勤労働員の状況がわかる資料であり貴重である。



第一章展示風景

3.2. 136年前の山形と学校

第二章では、山形県の近代教育の始まりとこれを主導した統一山形県初代県令三島通庸について紹介した。三島は山形県内の橋や道路を改修・新築し隣県との交通・流通を向上させた。さらに、県内の教育面にも力を注ぎ、朝暘学校、南山学校、師範学校などの学校建設にも尽力した。この近代化事業を記録するために三島の要請を受けて山形、福島、栃木三県を描いたのが洋画家高橋由一である。由一は1881(明治14)年から1887(明治20)年までの6年間で計3回来県し、『三島県令道路改修記念画帖』を完成させた。

このコーナーでは、長谷川竹葉《山形県新築之図》、高橋由一《三島県令道路改修記念画帖 其之三 山形県之巻》から《山形県庁前》、菊地新学《明治14年撮影の山形市街》を展示した。木版、石版、写真の

それぞれ異なる手法で表現された県庁とその周辺を見比べることで近代化され始めた山形県の姿を紹介した。

3.3. 三浦新七博士と長井政太郎館長

三浦新七(1877～1947：明治10～昭和22)は山形県の経済界と文化振興の指導者として活躍した人物である。山形市旅籠町に生まれ、山形尋常中学校卒業後、東京高等商業学校(現一橋大学)に学んだ。専門は経済史で、25歳には母校の講師となり、商業学、商業実践の科目を担当した。1927(昭和2)年の金融大恐慌が起こると、三浦は東京商科大学教授の職を辞し家業を継ぎ両羽銀行(現山形銀行)頭取となり山形金融界の経営再建に尽力する。一方、1928年には山形県郷土研究会を発足させ、会長に就任した。三浦は研究テーマや方法について会員に指導するだけでなく、資金の援助を全面的に引受け山形県の文化面を育てた。



第二・三・四章展示室風景

また、三浦博士に見いだされ、山形県内の地理学、歴史学に功績を残した人物が長井政太郎(1905～1983：明治38～昭和58)である。長井は山形県西村山郡柴橋村(現寒河江市大字中郷)に生まれた。1930年に山形県師範学校教諭として母校に勤めながら三浦の指導する山形県郷土研究会に所属し地域史研究の分野に大きな足跡を残した。1952(昭和27)年、長井は山形大学附属郷土博物館の初代館長に就任。1970年まで館長を勤めた。

この二人に関係する資料として《山形県教育展覧会記念写真帳》と《宮城山》を展示した。山形県教育展覧会とは、教育に関する成果物や参考品を紹介し今後の発展を図るための展覧会である。1927年、山形市第四尋常高等小学校(現山形市第四小学校)および新築の山形県教育会館を会場として行われた。このとき、教育会館では西村山郡役所にあった県郷土博物館から資料を移管した山形県郷土博物館が開館した。《山形県教育展覧会記念写真帳》には、この展覧会と開館当初の山形県郷土博物館の写真が収められている。

その後、1945(昭和20)年に教育会館は海軍に徴用され収蔵資料は師範学校の長井の元に受け入れられた。その中には《山形県教育展覧会写真帳》に写る《宮城山》や土人形も含まれていた。これらは長井の元から郷土室に移り、現在当館に伝わっている。また、三浦が収集した隠れキリシタンの十字架や羽黒鏡等も同じ経緯をたどっている。

ここでは、90年前の《宮城山》の写真と、現在の《宮城山》を合わせて展示し、時代の流れや当館のコレクションの成り立ちを紹介した。

3.4. 郷土室から博物館へ

附属博物館は師範学校時代にできた郷土室時代から数えて5回以上の引越しをしている。残された写真や記録、資料から附属博物館の歴史の一端を振り返った。

第四章では、郷土室時代から多岐にわたって集められた資料から教育にまつわる資料を紹介した。現在のようなインターネットや視聴覚資料が乏しかった時代、教育の場で用いられた教材教具は掛図や実物標本、模型標本であった。当館にも旧山高所



《歴史人形》

蔵の掛図や人体骨格標本が伝わっている。その他、明治時代末期から「世界人類風俗人形」「日本歴代服飾模型」などの名前で販売されていた土人形を展示した。同様の資料は福岡県立福岡中央高等学校、金光図書館、東京大学等が所蔵している。当館所蔵の「世界人類風俗模型」「歴史人形」も井上清助が製作販売した井上式地歴標本である。

2.5. 大正時代一芸術家たちの軌跡一

第五章では、大正時代の作家による美術資料とその研究成果を紹介した。本学には校舎の移転、教職員の世代交代により、その来歴や由来が失われてしまった備品がある。当館ではこれらを調査しその研究成果を学内外に発信することに取り組んできた。

川崎繫夫《閃光》は作者不明のまま長い間ふすま同窓会会館に保管されていたが、当館学芸研究員の調査により、2002(平成14)年に山形県出身の彫刻家・川崎繫夫の帝展入選作であることが分かった。また、2007(平成19)年の理学部改修工事をきっかけに発見された満谷国四郎《白石島》も当館学芸研究員によって画家が特定された。



第五章展示風景

2.6. 展示室から大学の外へ

現在、公開講座は大学などの教育機関、博物館、公民館などで広く行われているが、大学が開く公開講座は1964(昭和39)年の文部科学省大学学術局長、社会教育局長通知(「大学開放の促進について」)を端緒とし、長年にわたって推進されてきた。

当館主催の公開講座は1981(昭和56)年にスタートし、2013(平成25)年までの34年間の間31回開催している(1985、1994年は開催せず)。第一回公開講座「生活とエネルギー」の報告書の中で当時の館長川副武胤は博物館の活動をどう外へ普及発信していくかを検討していたこと、3年前から公開講演という形で始め、徐々に拡充させ、大学全体の各学部の関係教官に講師を依頼する「公開講座」にしていった経緯を語っている。その後も総合博物館の特徴を生かした多岐にわたるテーマと多彩な講師陣によって公開講座は好評を博した。ここでは、歴代の公開講座のポスター、および報告書などを展示した。



第六章展示風景

3. 関連行事

(1) オープンキャンパス特別企画

オープンキャンパス(8月11日)に合わせて特別企画「初代館長に続け! あなたのイチオシはどれ? 展示資料人気投票!」を開催した。当館が選んだ15点の展示資料の中から、気に入った資料を選び投票してもらった。参加人数は535名であった。

(2) 特別展示

小白川図書館所蔵の《広開土王碑拓本》、《物部守屋大連之碑拓本》を特別展に合わせて展示した。これらの拓本は2011年図書館の書庫で発見された。山高か師範学校から伝わったものと推測されており、第20回大学博物館等協議会・第12回日本博物科学会の会場でもある図書館に展示した。詳細は以下の通り。

期 間：2017年6月20日(火)～30日(金)

会 場：小白川図書館1階

開館時間：平日(8時15分～21時)、土日(11時～18時)

4. 成果と課題

『山形大学附属郷土博物館報 No.2』の長井政太郎「郷土博物館成立の思い出」や資料ラベルから西村山郡郷土博物館の資料が旧山形県教育会館の山形県郷土博物館に移り、戦後当館に伝わっていることはわかってきた。しかし、当時の目録などは伝わっておらず、資料点数が『財団法人山形県教育会館史』に記載されている他は、同書のグラビアに載る不鮮明な展示室内写真のみであった。

今回、資料調査をする中で、《山形県教育展覧会記念写真帖》に山形県郷土博物館展示室の鮮明な写真があることがわかった。さらに、写っている《相良人形 宮城山》、《鶴岡瓦人形 恵比寿》、《相良人形 犬》が現在当館に伝わっている土人形と同じものであると確認できた。

従って、これまで不明であった資料の来歴と、資料の最も古い展示風景写真が見つかったことになる。これは山形県郷土博物館所蔵資料が当館に伝わっていることを裏付けるものでもある。

今後の課題としては、本展のための資料調査で整理された「裁縫雛形」や「生徒成績品」のさらなる調査とその公開、展示を考えていきたい。



オープンキャンパス



人気投票結果

参考文献

國方敬司編「三浦新七博士—その人と軌跡」財団法人三浦新七博士記念会(2008)

長井政太郎「郷土博物館成立の思い出」、『山形大学附属郷土博物館報』No.2, 山形大学附属郷土博物館(1975)

槇 昭一「紙碑：長井政太郎先生のご逝去を悼む」、『歴史地理学』123号, 歴史地理学会(1983)

『財団法人山形県教育会館史』財団法人山形県教育会館(1987)

『郷土研究資料目録並解説』山形縣師範学校(1933)

『山形大学附属博物館 40年のことども』山形大学附属博物館(1994)

山形新聞「四万点を楽に陳列 山大付属博物館旧師範を改築」1957年6月27日 朝刊

山形新聞「山大の郷土博物館でき上る 資料五万点に及ぶ ちかく一般にも公開」1958年11月24日

山形新聞「民具の部屋をつくる 県内の各地から二百点」1962年11月17日

資料リスト

	資料名	作者/採集者	年代	材質・技法/ 採集地・出土地
1. 先輩たちのキャンパス ライフ	一体型机椅子			
	学帽			
	旧山形県師範学校校舎模型		1960(昭和35)年	
	教員肖像写真帳 (モニターでスライドショー)		1941~44(昭和16~19)年	
	号鐘			
	新聞「ふすま」		1946(昭和21)年	
	生徒成績品 (3点)		1907(明治40)年	
	卒業記念アルバム (モニターでスライドショー)		1930(昭和5)年	
	注意書き (4点)			
	入学および勤労働員関係資料 (4点)		1945(昭和20)年	
	火鉢			
山形県師範学校創立30年祝典記 念絵葉書		1908(明治41)年		
山大旧校舎	長野亘	1971(昭和46年)	紙・水彩	
2. 140年前の山形と学校	御巡幸御行列図	武田治郎吉	1881(明治14)年7月	木版彩色
	三島県令道路改修記念画帖 其 之三 山形県之巻	高橋由一(1828~94)	1885(明治18)年	絹本石版手彩色
	三島通庸子愛用鍋焼貝			
	明治14年撮影の山形市街	菊地新学(1832~1915)	1937(昭和12)年複製	印画紙
	山形県庁御新築諸人足並諸事控 山形県新築之図	長谷川竹葉	1881(明治14)年	木版彩色
3. 三浦新七博士と長井 政太郎初代館長	相良人形 犬		~1927(昭和2)年	粘土・素焼き・彩 色
	相良人形 宮城山		1922~27(大正11~昭和2)年	粘土・素焼き・彩 色
	鶴岡瓦人形 恵比寿		~1927(昭和2)年	粘土・素焼き・彩 色
	山形県教育展覧会記念写真帖		1927(昭和2)年	
4. 郷土室から附属博物館 へ	エンボッサー「山形大学印証」			金属
	オコジョ(夏毛)			
	柏倉門伝出土の銘有五輪塔		1413(応永20)年	石
	カムチャッカ産鮭鱒の種類		1935~43(昭和10~18)年頃	印刷
	記号番号表			
	寄生虫の液浸標本 (8点)			
	県内発見の十字架			石膏・黒塗り
	穀類標本 (30点)			
	故三浦新七博士寄託の羽黒鏡			青銅
	最新山形県大地図	登山俊彦	1964(昭和39)年11月1日	印刷
	裁縫雛形 (5点)		1935(昭和10)年以降	
	蔵王山模型	山形県師範学校	1921~43(大正10~昭和18)年頃	紙・石膏
	慈恩寺出土の蕨手刀		奈良時代	寒河江市箕輪遺跡 (旧西村山郡醍醐 村)
	人体骨格標本	島津製作所	~1944(昭和19)	
	世界人類風俗人形 (9点)	井上清助(1867~1922)	明治末~昭和初期頃	粘土・素焼き・彩 色
	土器片 (5点)		1942(昭和17)年	来迎寺遺跡(北村山 郡大石田町大字横 山字来迎寺)
	鳥の巢標本	星川清二		
	被服標本 (5点)		昭和40年代	
	舞童帳		1514~49(永正11~天文18)年	
	蘭標本 (10点)			
	マングローブ植物花粉化石			
焼き印			木・金属	
山形県大地図	信用堂	1935(昭和10)年	印刷	
山形市街図		昭和初期	印刷	
山形師範学校之印	耕生	1948(昭和23)年春	石・篆刻	
ライチョウ(夏・冬羽)	島津製作所			
歴史人形 (25点)	井上清助(1867~1922)	明治末~昭和初期頃	粘土・素焼き・彩 色	
5. 大正時代一芸術家たち の軌跡一	銅鷹	根上富治(1895~1981)	1922(大正11)年	絹本着色
	白石島	満谷国四郎(1874~1936)	1921(大正10)年	麻布油彩
	閃光	川崎繁夫(1892~1924)	1920(大正9)年	石膏着色
	母子	新海竹蔵(1897~1968)	1915(大正4)年	石膏着色
6. 展示室から大学の外へ	公開講座「山と生活」(2点)		1989(平成元年)	
	公開講座ポスター(26点)			
	生活とエネルギー講義要項・報 告書		1981(昭和56)年	
	博物館資料写真I		1958~60(昭和33~35)年頃	
	博物館に遊ぶ講義要項・報告書		1982(昭和57)年	
	パンフレット(3点)		1972(昭和47)年、73(昭和48)、 93(平成5)	
名前のない資料たち	三羽の鶴が描かれた壁の一部?	?	?	土?